



二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月 二・三・四・五・六・七・八の日 発行

「寛容」という言葉について  
ちいろば会評議員 木ノ脇 悦郎

今日は「寛容」という少し難しい言葉について一緒に考えてみましょう。この言葉について最近少し気になることがあったのです。去年12月に総理大臣の安倍さんがアメリカ大統領オバマさんと一緒にハワイの真珠湾に行き、真珠湾攻撃で亡くなった兵隊さんたちの慰霊行事に参加したことはテレビ等で見て知っている人が多いと思います。その時に、安倍さんは演説をしました。その内容全部をここでもう一度繰り返すことは出来ませんが、70年前に戦争をしたアメリカと日本が今は仲良く、世界の平和のためにとても役立っているということを話したのです。どうしてそういうことができたのかという理由について「寛容な心」を持ったからだと言いました。とても不思議な気持ちで聞きました。

戦争は、それが始められる前にいろいろな難しい理由があります。どちらにも言いたいことがあるでしょう。でも、私たちが誰かと争いをする時、両方に相手に対して言いたいことがあったとしても、いきなり殴りつけることはないでしょうね。ところが、残念ながら真珠湾攻撃という出来事は、日本が前もって知らせることもなくいきなり殴りつけたのと同じことだったのです。その後、それが引き金となって大きな戦争になってしまい、日本はアジアの国々を巻き込みながら、自分たちの国も大変な苦勞を背負い、とうとう戦争に負けてしまったのです。戦争が終わってから日本人の人はもう二度と戦争は嫌だと言って、平和のうちに生活を始め、大きな努力をして豊かな国を作り上げ、世界の人もそれを認めて仲良くするようになりました。でも、戦争をした日本から大きな苦しみを受け、今でもその苦しみにから抜け出すことができない人たちがアメリカにも韓国や中国をはじめとするアジアの国々にもたくさんいるのです。アメリカと仲良くなったからそのことはもう忘れてくださいということはお出来ないのですね。

安倍さんの寛容という言葉が不思議だというのは、そのことと同じだと思うのです。真珠湾で亡くなった人の慰霊をしに行くのですよ、謝りに行くのではありませんよ、と言いました。殴りつけた人が、そのために多くの人が死んだのに謝ることをしない。相手がそのことを厳しく攻めなかったから、そのことは忘れてこれからのことだけ考えましょうというのは自分勝手な理屈ではないでしょうか。

「寛容」という言葉のもともとの意味は「耐える」とか「忍ぶ」ということなのです。誰も自分を悪いと思いたくないのですが、昔悪いことをしたのであれば「我慢し、耐えて」相手にまず謝ることが必要です。いやでも、しなければならぬ謝罪を我慢してすることが「寛容」な心の始まりなのです。聖書に「愛は忍耐強い」とありますが、古い訳では「愛は寛容である」となっています。その後「愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない」と書かれています。安倍総理も私たちもこのような意味での「寛容」と「愛」を学ぶことが大事だと思います。聖書の教えはすごいですね。



「学び続けること」

ちいろば生活支援センター 楠本杉子

今年度、法人内で毎月開催している職員勉強会の講師を務めています。障害福祉の仕事は専門職です。情熱だけでは務まらず知識や経験、とっさの判断力や相手を理解するために五感をフルに活用する訓練も必要です。それらを身につけるためには他者の力を借りながらも、やはり最終的には自分自身で学ぶ行動が必要だと思っています。

そもそも障害福祉の業界で働きたいと思った目標となるものは何ですか。「人の役に立ちたいから」ですか？それはなかなか実現するのが難しい目標かもしれません。相手が貴方を役に立つと思うのはどんな時でしょうか。「役に立ちたい」思いは押しつけや自己満足になってはいけません。専門職としてどれだけの支援の選択肢を蓄えていますか？そのためにどんな勉強をしていますか？「役立っている」と思う根拠は何でしょうか。そんな一方的な考えは、潜在的に相手に対して上下関係を持っている自分の思いの気づきになるかもしれません。日々の努力の先の結果として「ありがとう」と言葉を頂けた時は本当に嬉しいものですが、それを期待した行動は相手に見透かされるものです。利用者となかなか関係が築きにくい時、そこには潜在的に「私が何かをやってあげる」という感情があるのかもしれませんが。ですがその思いだけでは情熱は伝わらないものです。まずは自分の胸の中にある気持ちと向き合ってみてください。誰を見て支援をしていますか。相手は本当にそのような方法の支援を望んでいますか。自分の思い込みで支援しているとは思いませんか。身体介護技術も基本があります。「自分のやりやすいように」というオリジナルな介護方法で相手は心地良いでしょうか。基本ということは、その方法が相手にとって安心で安全なものとして長年の研究から創りだされたものです。尚且つ、支援者にも配慮がされている内容になっています。この辺りは勉強して実習しなければ解らないことです。

毎日毎日、様々なことに気を配っているので精神的に疲れる時もありますね。自分自身をケアすることも大切です。この仕事に心の体力は不可欠ですから。上手く気持ちの切り替えができる時間を見つけてください。支援の答えが見つからない、一体どのような支援方法が正解なのだろうか。そんな思いに気持ちが支配される時もありますね。ですが「正解は正解した時にしか分からない」ものです。やってみて、上手くいかなくて、また違う方法でチャレンジして、相手にとっての「正解」が分かる時まで繰り返すです。ここでも「この方法でいいのです」と自分流のやりかたにこだわってはいけません。あなたが知らないだけです。もっともっと幅広く沢山の支援方法があることを学ばなければいけません。それらを知ると障害福祉の仕事は今より何倍も充実しますし、やりがいが出てきてさらに楽しくなるはずですよ。

私は勉強会で毎月テーマにそった講義をしていましたが、そのテーマの背景で伝えたかったことは共通して上記のような内容です。1年を通して学ぶ楽しさを知ってもらいたいと思って伝えてきました。何人の職員が感じとってくれたのでしょうか。いえ、そんな押しつけるような思いを持つてはいけないのです。相手に伝わる講義ができるようになるために、私もまた学び続けることが求められているのだと感じています。



み 見つけた！！ 合理的配慮！！  
ごうりてきはいりよ

せいかつしえん 生活支援センター くぼ みよこ 窪 美代子

グループホームの利用者さんの中で、移動支援を利用して買い物をされている方がおられます。

支払いの時、レジで金種がわからないためいつもヘルパーが助言して支払いをしていました。

その後、グループホームから自宅に帰る時、お母さんから頼まれた買い物を一人で買って帰られていることを知りました。どうして一人で買い物ができているのか？を

疑問に思い、お母さんに尋ねると店員さんが顔なじみなので、

支払いの時も助けてもらい一人で出来ていることがわかりました。



私 はお店での合理的配慮がされていることに気づき、地域で生活するうえで周りの配慮や

助け、支援があれば一人で出来ることがどれだけ増えるだろうと思いました。お店に対して本人

が困っている時、手助けしてもらえようをお願いすることも私たちが出来る合理的配慮だと思  
います。

支援者は、自分の考えを表現したり、相手に伝えたりすることが苦手な利用者さんの事を理解  
し、思いを発信していかなければいけません。

そして、地域で暮らしていく為には、本人の希望や意思を尊重した手助けや支援が必要です。

その対応がしっかりとできる支援者になれるように心がけていきたいと思っています。

ことし 今年も、<sup>まいとしこうれい</sup>毎年恒例！<sup>れいはい</sup>クリスマス礼拝・パーティーが

<sup>がつ</sup>12月23日（<sup>きん</sup>金）<sup>おこな</sup>に行われました。

<sup>れいはい</sup>礼拝を通じて、<sup>いみ</sup>クリスマスに<sup>かくにん</sup>意味を確認し、

<sup>よろこ</sup>その喜びを<sup>わ</sup>分かち<sup>あ</sup>合ってもらいます。

そして、パーティーでは<sup>ひにちじょう</sup>非日常<sup>たの</sup>を楽しんでもらいます。



<sup>れいはい</sup>クリスマス礼拝では、<sup>かくぶもん</sup>各部門で<sup>じぜん</sup>事前に「クリスマス

<sup>ものがたり</sup>物語」を<sup>かみしばいけいしき</sup>紙芝居形式で<sup>よ</sup>読み、<sup>いみ</sup>クリスマスの<sup>りかい</sup>意味を理解

してもらいました。<sup>れいはいろうどく</sup>礼拝朗読に<sup>りっこうほ</sup>立候補してくれた

<sup>りようしゃ</sup>利用者さんは<sup>とうえんご</sup>登園後や、<sup>ゆうがた</sup>夕方の<sup>じかん</sup>バスまでの<sup>りよう</sup>時間を利用

し、<sup>まいにちろうどく</sup>毎日朗読の<sup>れんしゅう</sup>練習を<sup>がんば</sup>頑張ってくれていました。



パーティーでは、<sup>ふだんきゅうしょく</sup>普段給食では<sup>た</sup>食べられないような

<sup>た</sup>食べ物も<sup>もの</sup>たくさん！<sup>みんな</sup>みんな、<sup>おい</sup>美味し<sup>た</sup>そうに<sup>た</sup>食べている

<sup>すがた</sup>姿が<sup>いんしょうてき</sup>印象的でした。<sup>ひ</sup>この日の<sup>じっこういいん</sup>ために<sup>じ</sup>実行委員が

<sup>まいしゅうあつ</sup>毎週<sup>はな</sup>集まり、<sup>あ</sup>話し<sup>かさ</sup>合いを重ねてきました。

<sup>こんかい</sup>今回は、<sup>かくぶもん</sup>各部門にそれぞれ<sup>だ</sup>したい<sup>もの</sup>出し物を<sup>かんが</sup>考えて、

<sup>おこな</sup>行ってもらいました。

ゲームが多く、<sup>おお</sup>頭<sup>あたま</sup>をたくさん<sup>つか</sup>使った<sup>ことし</sup>今年のパーティーでした。

<sup>さいご</sup>最後は<sup>みんな</sup>みんなで「<sup>だいがっしょう</sup>サンタが<sup>まち</sup>まちに<sup>やってくる</sup>」を<sup>だい</sup>大合唱！

<sup>えがお</sup>みんなの<sup>み</sup>笑顔が<sup>いちにち</sup>たくさん<sup>らいねん</sup>見れた<sup>たの</sup>一日でした。来年も<sup>たの</sup>楽しみですね！



# ちいろば会職員リレー エッセー



## この職種を選んだ理由

ちいろば園 宮本 道

私がちいろば園に入職したのは、2002年の1月でした。  
きっかけは、その年の秋に控えるクッキーの大口注文に向けて、準備のためのお手伝いという  
ことで富田施設長から声をかけていただきました。二人の子どもは、ともにあいのその幼稚園に  
通っていたので、子どもたちが幼稚園にいる間の数時間だけの本当にお手伝いという程度のもの  
でした。子どもたちの成長に伴い勤務時間も少しずつ長くなり、15年たった今では古株の毎日  
職員になりました。

あっという間の15年でしたが、続けてこれたのは、ちいろばに集う「みんな」のおかげだった  
と思います。一人一人がユニークで、その行動は私の想像力を遥かに超えて、楽しいことが多く、  
びっくりすること、時々・・・困ったな・・・と思うこともありましたが、ちいさなおもしろエ  
ピソードが満載な毎日でした。パート勤務の時は毎日出勤しないので、出勤する度に「えっ？」  
「あれ？」「・・・ん？何があったん？」「先週とちがうやーん」と思うこともしばしば。他の職員  
に状況を尋ねたり、タイムリーな声掛けができなかったりして今一つみんなとの距離が縮まら  
ない気がしていました。他の職員とのやり取りを見て、想いが伝わった時には「あんないい表情  
をするんや・・・」と羨ましく思ったり。逆に想いが伝わらないことで不安定になってしまった  
ときは、「この人はこれが苦手」とその人の苦手なことを周りが気づいて取り除くことで随分とス  
ムーズに行動できるようになることに気がついたり。そんなことの積み重ねの毎日です。少しずつち  
いろばで過ごす時間が増えていきました。

障害とは個人の特性ではなく、個人と社会の間にあるものである。ちいろばでの毎日で本当に  
そうだなあと思うようになりました。社会との間の壁やら溝やらをフラットにすることは難し  
いことですが、支援者として一人一人の想いに心を向けて、壁を越えたり、溝を埋めたりする方  
法を考えていくことが大切な役目だと考えるようになりました。働いたきっかけは些細なこと  
でしたが、私自身も学びの多い時を過ごす事ができました。

次は、ちいろば園の遠藤さんにバトンを渡したいと思います。  
よろしくお願ひします。  
テーマは、引き続き「この職種を選んだ理由」です。

わたし  
ぼくの

ピカッ



いち



しゃ しん かん

# 写真館

～好きなもの、気になるもの、興味のあるもの～



## 『給食』

軽作業2階部門 藤原 小百合さん

私は、毎日のお昼ごはんが楽しみなので、給食の写真を撮りました。

毎日、朝礼と夕礼の時に給食のこんだてを発表しています。

これからも、毎日の給食をしっかりと食べて作業をがんばります。

## 『お絵かきセット』

創作部門 濱野 由利子さん

給食のリクエストメニューやイベントに向けて、絵を描いたり色を塗ったりしています。

写真は各部門に配るリクエストメニュー用紙をかいている所です。

来月の節分に使う鬼のお面も頑張ってお作りしていきます！



## 『クッキーの道具』

製パン製菓部門 橋本 勝寿さん

絞り出しは私と西岡君2人で頑張っています。

三郷町敬老会のクッキーは980個、

クリスマスのクッキーは876個、

手が痛くなっても頑張りました。



# ちいろばクリスマスコンサート2016

かいさい  
が開催されました!!

ひび お せかい  
「チェンバロの響きが織りなすバッハの世界」



こんねんど  
今年度のクリスマスコンサートはバッハの「ゴールドベルグ変奏曲」をチェンバリストの河野まり子さんの演奏とお話とともにじっくりと聴かせていただきました。ご来園いただいたお客様も中世ヨーロッパ時代につつまれるような演奏に魅了されました。・・・来年度のコンサートも楽しみですね。ありがとうございました!! (米田)

## ブルーベリーのオーナー募集について

2016年度実施したブルーベリーオーナー(モニター)制は予想以上に好評でした。モニターの方々からいろいろご意見をいただき、ちいろば園職員で検討した結果2017年度も引き続きブルーベリーオーナー制を実施する事になりました。

2017年度のオーナー募集口数は10口(10組)とさせていただきます。詳細については下記お問い合わせまでご連絡下さい。

### オーナー様がすること

- ① 5月頃、ちいろば園に来てブルーベリーの株(木)を選ぶ。
- ② 7月中旬～8月初旬、ブルーベリーの収穫。

★場所：ちいろば園 ★1口(1株)：3800円 ★申し込み期間：3月10日(金)まで

○お申し込みは電話にて、【お名前、ご住所、ご連絡先】をお知らせください。

(平日8:30～17:30)

※10組以上の応募があった場合は抽選のうえを決定させていただきます。

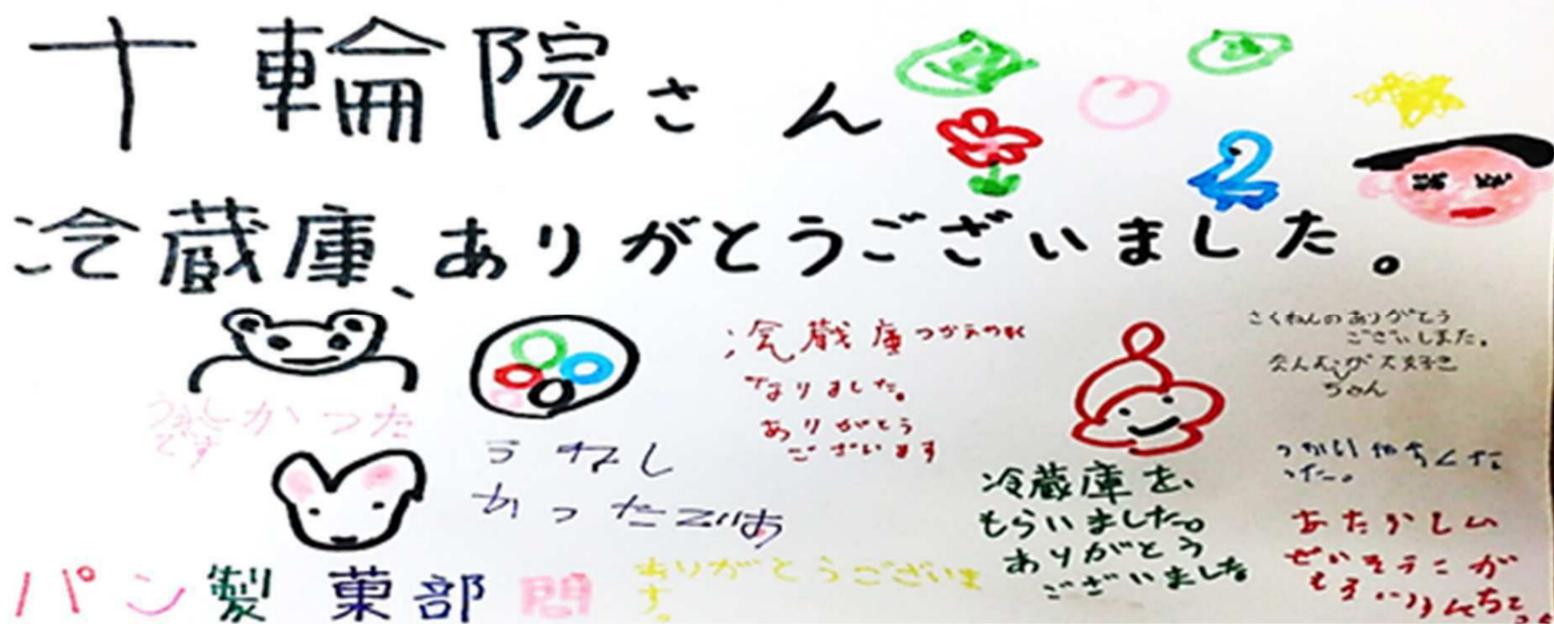
●お問い合わせ先：電話／0745-72-1923 担当／園芸部門

☆後援会年会費《ちいろばだより年間購読料》(2016年10月1日~2016年11月30日)  
森田公将・玲子、福音幼稚園、妻野三津代、文新善

☆後援会費(2016年10月1日~2016年11月30日)  
篠原範子(10.11)、蓮田マチ子

以上 敬称は略させていただきます

「十輪院障害者福祉基金 28年度助成」により、2016年12月に新しい冷蔵庫を  
購入させて頂きました。  
利用者の方々も喜んでます。皆で気持ちを書かせて頂きました。



## KSKS ちいろばだより

編集人／	ちいろば会後援会	年6回	頒価	50円
連絡先／	奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14			
	TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760			
発行人／	関西障害者定期刊行物協会			
	大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F			